

## 「問題行動への対応」



「問題行動」の理由は大きく四つに分類されます。

注目を得る

要求を通す

逃避(嫌なことから逃げる)

感覚刺激を得る

(例1)

「アイスが欲しい」ときに寝転んで大泣きをするとアイスがもらえた! <要求>



(例2)

やりたくない課題があって、大声を出すと、教室から出られた(課題をしなくてすんだ!) <逃避>



次からも、同じ行動をして要求を通そう<嫌なことから逃げよう>とする。  
(行動の強化)

行動の前後や行動の理由を観察・分析することが、指導・支援のヒントにつながります。



### 応用行動分析(ABC分析)

「行動」に着目して、その行動の先行事象(直前の原因)と後続事象(直後の結果)を観察し、環境や関わり方を変えることによって、行動を改善していきます。

☆まずは、記録をとってみましょう。

A	B	C
いつ、どこで、誰と、何をしている状況で	どんな行動をし	どう対応した

⇒行動のきっかけ、原因となるもの、行動後の対応を記録し、環境(A)の調整や指導・支援(C)の工夫につなげていきます。

(行動の理由) (解決策の例)

- ・注目を得たい … 問題行動がでていないとき(よい場面するとき)に褒める。問題行動で気を引くことが減る。
- ・要求 … 適切な伝え方をしたときに、望む結果が得られるように、関わり方を変える。
- ・逃避 … 逃避行動を引き起こす原因を減らす(課題の質や量の調整、時間の設定など)。適切な伝え方を学ばせる。
- ・感覚刺激 … 感覚を十分に満たす時間を設定する。社会的に受け入れられる感覚行動に置き換えていく。

「褒める」は、アイコンタクト、「○○しているね」など行動の実況中継でもOKです。

☆適切な行動をしたときに、本人にとってよい結果がもたらされる(実感、体験する)ことで、適切な行動が定着していきます。

「○○をしたら、褒められた」「○○をしたら、好きな物を得られた」などの経験を重ねていくことが重要です。

